

紅葉を堪能しながら慰霊登山
御 嶽 山

実施日 2018年10月7日(日)～8日(月・祝)

天 候 晴れ

リーダー 中村 友子

参加者 涌井良明、石附智江、渋谷京子、
中村友子、伊藤久雄、石原勝正、
徳山敬子、小名秀鋭 計8名費 用 JR15,560円(新宿起算)石室山荘
9,300円 車28,640円/台(往復)
往復2,340円(10%off)タイム 10/7 木曾福島駅(10:30・車)御
嶽 鹿ノ瀬駅(11:15~11
:25)飯森高原駅(11:40~
11:50)七合目行場山荘
(12:00)女人堂(13:05~1
3:25)石室山荘(14:45)10/8 石室山荘(6:45)9合目(7:0
0)剣ヶ峰(7:35~7:45)二
ノ池新館(8:15)賽の河原
避難小屋(8:35~8:45)摩
利支天山(9:25~9:35)賽
の河原避難小屋(10:05~1
0:50)二ノ池本館(11:15)
石室山荘(11:40~11:50)
女人堂(12:30~12:40)飯
森高原駅(13:30~13:40)
鹿ノ瀬駅(13:55~14:10)
木曾福島駅(15:00)10 / 7 今年9月のこぶし会山行は台
風、もしくは雨予報ですべて中止になり
今回も又かと思わせる事態になっていた。当初9月末に予定していたが今秋一部規
制解除され山頂を踏めそうな情報があ
り、日程変更、更に解除期間最終日に延
期は出来たものの日本列島に甚大な被害
を与えた24号台風の直後追いかける様
に25号台風がやって来た。直前まで気
もめたが、当日あずさもロープウェイも
動いており予定通り進める事が出来た。全員6合目からの歩きは避けたいと願っ
ていたに違いない。木曾福島駅から予約しておいたジャンボタクシーに
乗り御岳ロープ
ウェイ鹿ノ瀬駅。
15分乗車で飯森
高原駅。見渡せ
る山々は紅葉に

染まり素晴らしい。

後に分かったのだが紅葉はここら辺迄
で上層部は既に終わっていた。登山開始
10分、7合目行場山荘の「ちからもち」
が目に入るがここは帰りに寄る事とし先
を急いだ。午後からの歩きなので下山者
とのすれ違いが多い。古びた樹の土砂止
めも滑り易い。8号目女人堂では沢山の
花が花台にお供
えされ大勢の人
が休憩を取っ
ていた。森林限界
の地にあり石室
山荘、更に山頂
まで望むことが出来る。明日下山時に使おうとしていた三ノ池
から女人堂迄の三ノ池道は閉鎖しており
ピストンで下山する事に決まった。この
先休憩を取りながら進むが黒岩から室堂
山荘までは岩ゴロゴロ急登で厳しい。山荘は見えるがなか
なか着かない。到着後落ち着いた
所で雲海から頭を
出す槍ヶ岳乗鞍岳
等北アルプス、場所を変えれば中央アルプスその奥に薄っすら
南アルプス堪能。雲がピンクに染まり終わ
り、品数沢山そして美味しいお米の夕食。

10 / 8 日の出は5時45分と聞き外で待つ。これを目指しての登山者も多い。昨夜の星空も見事だったが日の出も素晴らしい。昨夕に続いて北アルプス全容、中央、南アルプスといつまでも飽きない。6時の朝食を済ませ6時45分に出発出来た。



急な岩階段を登り詰め尾根に出る。4年前の噴火のニュースを思い出しながら辺りを見渡し進むと当時のま

まの頂上山荘が痛々しくロープの向こうに在り、慰霊碑が建っていた。メンバーの一人が持参した花を供え冥福を祈った。

早朝の為込み合っただけで狭い剣ヶ峰山頂で次から次にと人波が寄せるので早々に場所を後にした。



二ノ池の脇を通り賽の河原に進む。火山灰で埋まったのか一面灰色、水はわずかだった。本館は建て替え工事中。賽の河原避難小屋にザックをデポして摩利支天山迄進んだ。



山頂は岩々で狭く次の登山客に譲るため写真撮影のみでそそくさ折り返した。



摩利支天乗越からは五ノ池、賽の河原避難小屋からは真っ青な三ノ池が望める。

通行止めになっていなければ通りたかった女人堂への三ノ池道も眼下に確認出来た。ここで晴天下御嶽山全容を見ながら力餅を計算して早目の昼食。こんなにも穏やかな山で・・・と思わずにはいられない。

二ノ池脇から石室山荘に戻った。



登り下りの登山者の多さには驚いた。今年最後の規制解除日（11時半にロープが掛けられ様子です）の上暫く無かった秋晴れでしょうか富士登山を思わせる。



石室山荘で大休止の後、昨日登った道を下った。女人堂を過ぎ飯森高原駅手前7

合目行場山荘で力餅としたかったがあずきは売り切れ、きな粉餅のみとの事なのであきらめロープウェイに乗り鹿ノ瀬駅で予約済のタクシーにてそのまま木曽福島駅直行。塩尻駅経由で帰る、風呂に寄る、松本駅経由で帰るそれぞれで解散とした。

皆様お疲れ様でした。近々迄ハラハラでしたがすべて良しの最高の慰霊登山が出来ました。心から冥福を祈り私たちはこれからも安全登山を心掛けましょう。

(記・中村 友子)

(写真提供・涌井良明／伊藤久雄／石原勝正)